

絆を結ぶ——飼い主の心得

ペットと暮らしていくことは、ペットと自分、そして地域社会ともいい関係を作っていくことでもあります。ペットを野放しで好き勝手にさせたり、逆に思い通りにしようとしたり、一方的に癒しを求めることではありません。

1 あなたのペットの正しい知識を得る

ペットの種類に合った飼い方や生態、本能や習性について、獣医師などの専門家に相談したり、専門家の書いた本などを読みましょう。

飼い主が守らなければならないことについて、どんな法令があるか知っておきましょう。例えば、犬の飼い主には3つの義務があります。

- ①住まいの市区町村に飼い犬を登録すること
- ②飼い犬に年1回の狂犬病予防注射を受けさせること
- ③飼い犬に鑑札と狂犬病予防注射済票をつけること



2 健康管理と繁殖制限措置

正しい知識に基づいて、ペットの飼養環境を整え、適切な食餌を与えましょう。毎日よく観察し、健康状態に気を配り、普段と違うときはすぐに獣医師に相談しましょう。ワクチン接種など病気の予防措置も大切です。

繁殖を予定していないのなら、繁殖制限措置を行いましょう。犬や猫などの場合、望まない繁殖を防ぐ確実な方法は不妊去勢手術です。手術のリスクはありますが病気のリスクや性的ストレスが減ります。災害時に避難先で過ごす時や、ペットを誰かに預けたりする場合にも、不妊去勢手術はペットの性的なストレスを軽くし、世話をする側の手間も軽減します。

3 必要なしつけ

しつけをすることは、ペットとのコミュニケーションにもなり、絆を強くします。基本的なしつけができていないペットは、普段から周りの人にも愛されるだけでなく、災害時に避難先でも受け入れられやすく、ペット自身のストレスも軽減することができます。

上手なしつけのポイントは、ペットの習性や行動特性を勉強し、ペットが困った行動をする時にはその原因を見極め、いい行動をした時には、たくさんほめて、人もペットも楽しく学んでいくことが大切です。

犬の場合



- ★「待て」、「お座り」、「伏せ」、「おいで」などの基本的なしつけ
- ★ケージに入ることを嫌がらず落ち着いていられる
- ★不必要に吠えない
- ★人や他の動物を怖がったり攻撃的にならない
- ★決められた場所での排泄

猫の場合



- ★ケージやキャリーバッグに入ることを嫌がらず落ち着いていられる
- ★人や他の動物を怖がらない
- ★猫用トイレでの排泄